

話題の受章者

今年の春の叙勲受章者が発表された。本県からは地域の振興や安全、教育などの各分野で貢献した59(男性54、女性5)人が晴れの栄誉に輝いた。それぞれの分野で強い信念を持ち活動してきた受章者のうち5人に、思い出や古里への思い、後進へのメッセージなどを聞いた。

元三菱重工長崎造船所病院医療技術科長

しばやま あつむ
柴山 蒐さん(78)

=長崎市女の都2丁目=

瑞宝双光章

現場の最前線に立ち続け



「医療の最前線で仕事ができ、誇りを持っている」と語る柴山蒐さん

診療放射線技師として40年間、医療現場の最前線に立ち続けた。診療の時、必ずと言っていいほどエックス線など画像診断を受けるため、「絶

対に患者さんの病気を見つ

三菱造船長崎造船所病院(当時)に勤務。県放射線技師会の会長も務め、会の社団法人化に尽力した。

進歩が早い医療の世界。コンピュータ断層撮影装置(CT)や磁気共鳴画像装置(MRI)など駆け出しのころと比べると画像検査の種類は増えた。「新しい機械が入るたびに勉強に追われた」と振り返るがその分、放射線技師への期待も高くなったという。

求められる役割は今まで以上に増すと感じる。「知識を増やし、誇りを持って患者と向き合ってほしい」と後進にエールを送る。(山口紗佳)